

エコ・へるす

〇〇●●長野県環境保全研究所ニュース 平成25年(2013年)11月15日発行●●〇〇
 安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415
 飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
<http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> Email: kanken@pref.nagano.lg.jp



なぜツキノワグマが人里に出没するのか？

近年、長野県ではツキノワグマが人里周辺に出没して、農作物に被害を与えたり人と遭遇したりすることが多くなってきました。昨年は、10月5日の早朝に長野市街地をクマが徘徊し、長野駅のホームにまで出没するという事件がありました。なぜ、このようにクマが人里にまで出没するようになったのでしょうか？

じつは、長野県内では人里へのクマの出没がいつ起きても不思議ではない状況です。それは、昔は人が利用していた里山が放置されて、市街地に接する山裾までクマの生息地が広がってきているからです。例えば、長野市街地（標高約300m）と環境保全研究所飯綱庁舎が位置する飯綱高原（標高約1,000m）との間の地域は、森林、集落、田畑、果樹園、トウモロコシ畑などがモザイク状に分布する、いわゆる里山と呼ばれる地域です。昭和30年（1955年）頃までは、薪の採取や炭焼き、あるいは建築用材のために森林が定期的に伐採されて開けた環境でした。しかし、近年はそのような需要がなくなり、放置されてクマが好む森林に変わってきました。発信器を装着したクマが、平成11年（1999年）に長野市街地から1kmも離れていない森林内で冬眠し、出産したことがあります。おそらく、

多くのクマがこの地域で生まれ育っていると推測され、今では完全にクマの生息地になっていると考えられます。長野県内の里山はどこでも同様な状況です。

このような環境では、トウモロコシなどの農作物や生ゴミなどクマを誘引する原因を取り除かない限り、捕獲しても出没を抑えることができません。農作物などは電気柵で守り、生ゴミは適正に処理することが必要です。また、人家や農地に隣接するヤブを刈り払ったり、林を間伐するなどクマが近づきにくい環境をつくることも対策の一つです。

(岸元良輔 kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)



ツキノワグマ（撮影：瀧井暁子氏）

目次

- ・ 最近の話題「なぜツキノワグマが人里に出没するのか？」 1
- ・ トピックス「衣類への含有が規制されている有害物質」 2
- ・ トピックス「航空機騒音の新環境基準について」 3
- ・ お知らせ「H25 年度公開セミナーを開催します」 4

